

**立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)**

**大学院学生研究**

**2015年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院 異文化コミュニケーション 研究科 異文化コミュニケーション 専攻		
<b>研究代表者</b> (2016年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	異文化コミュニケーション研究科・異文化コミュニケーション専攻・博士後期課程 2年		荻原 まき 印
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名
	異文化コミュニケーション研究科・教授		小山 亘 印
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 社会	<b>個人・共同の別</b>	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 共同 名
<b>研究課題</b>	キリスト教という異文化との出会い：台湾原住民族の『今ここ/過去』の語りから		
<b>研究組織</b> (研究代表者・共同研究者) ※2016年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	異文化コミュニケーション研究科 異文化コミュニケーション専攻 博士後期課程 2年		荻原 まき
<b>研究期間</b>	2015 年度		
<b>研究経費</b> (1円単位)	(支出金額) 176,143 円 / (採択金額) 200,000 円		

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

台湾原住民族の、日本語での語りを分析するにあたり、言語人類学の知見を元に、彼らの談話(ミクロ)と社会的出来事、個人のライフストーリー(マクロ)をそれぞれ分析し、さらにミクロとマクロがどのように接合されるのかを明らかにする。特に「今ここ」と「過去」のつながりを、記号論を用いて分析を行う。つまり、彼らの語り=ナラティブ、言語人類学、記号論が該当分野といえる。

昨年度のフィールドワークにおいては、前期課程での今後の課題としてあげていた事柄が少し明らかになった。彼らの人生にとっての転機は、やはり日本降伏とキリスト教入信であった。それを踏まえ、特に今年度はキリスト教との出会いを中心に分析を行なう。彼らの談話(ミクロ)と背景(マクロ)を接合し、「今ここ」と「過去」の重なりの中に現れるアイデンティティの揺らぎも考察したいと考える。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 台湾原住民族 ] [ 語り ] [ 記号論 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

2015年度は、2014年度に引き続き、①先行研究の収集、および講読、収集したデータの見直し、②原住民族 A へのインタビュー、③学会発表、論集寄稿、の3点を、より深く行うことを今期の研究計画の目的とした。以下これらの取り組みの報告を行う。

まず①については、②のインタビューとも関連しているが、キリスト教についての語りのデータを中心に、以前収集したデータを再分析した。それと同時にキリスト教に関する先行研究、文献の講読も行った。加えて台湾とキリスト教に関係する研究会に参加し、私自身と同様の研究を行なっている研究者との人脈も広げることができた。結果、原住民族がキリスト教に入信した理由について多少理解することができた。それは台湾という文脈においては、歴史に翻弄された彼らの背景から、一般的に言われている入信の状況とは異なったものであることが示唆された。以下、②を踏まえ記す。

②の研究概要として、①の考察を踏まえ、以前からの研究協力者である A に 2015年 12月 24日、キリスト教入信についてのインタビューを行った。結果、インタビューにおける語りでは、ただたまたま出会ったのが今の宗派であり、それまでの山の信仰からの解放であったということがうかがえた。その際、A が「バイブル」として使用している書籍があり、それは日本人宣教師の伝道記であった<sup>1)</sup>。このことから、A の伝道の背景には、かつて日本人が山地で行なった伝道を基礎としていることが示唆された。また A は教会で使用している讚美歌集を編集しており、日本の讚美歌も歌詞をそのままローマ字にして収め、現在も讚美歌として歌っていることも明らかとなった。A へのインタビュー、そして以上のことから見られることとして、A (あるいは原住民族) の入信というものは、何か強い改宗心があったから、またその宗派の教義に共感したから、などとは関係なく入信したことが垣間見られた。また、今までは日本降伏、入信という「過去」の語りが多かったのに対し、今回は「今ここ」の A の伝道についての語りを聞くことができた。しかしその語りそのものが信仰を通しての語りとなっていることも鑑みると、その信仰を通じた語りを含めた語りの分析も必要となることが今後の課題として明らかとなった。

加えて、2015年 12月 27日、桃園縣復興郷の泰雅族の原住民へのインタビューも実施した。2年前に一度話を聞いている方であったが、この方にもキリスト教入信の話聞き、録画、録音を行った。結果、A 同様、自分の意志ではなく、兄が入ったから、という理由で入信しており、強い信仰があったからではなかった。この入信の語りについてはこれからも分析を進めていく。

入信の語りについてはこれからも文献等を読み進め知見を広めたい。しかし、台湾におけるキリスト教入信について、特に山地にいる原住民族の入信についての先行研究は非常に少なく、参考となるものが手に入りにくい状態である。今後はキリスト教の教会、聖書等にもあたり、少しでも彼らの語りを補完するような文献が得られればと思う。

最後に③であるが、2015年 6月の多言語社会研究会、9月の異文化コミュニケーション学会、2016年 2月の台湾原住民族との交流会において、それぞれ口頭発表を行った。聴衆のみなさまからは、今後に繋がる意見を多くいただいた。またそれぞれの発表の場で新たな人脈も作れ、今後もその関係を維持し研究の参考としたい。

論集寄稿については、社会言語科学会、天理台湾学会にそれぞれ論文を投稿した。社会言語科学会においては、一度査読を通過し、現在一度目の修正を終えたところである。査読者からのコメント等が非常にありがたく、研究の弱いところ、修正が必要なところが明らかとなり、今後の研究、あるいは論文執筆に非常に有益となった。天理台湾学会はまだ査読中ではあるが、一ついい経験となった。

**研究成果の概要 つづき**

その他のこととして、2015年12月29日に国立台湾政治大学(台湾において台湾大学に次いで二番目の国立大学であり、立教大学の姉妹校ともなっている)へ表敬訪問に行った。これは同12月中旬に行われた台湾原住民族に関するシンポジウムで名刺を交換した台湾人の方々が所属している、「政治大学台湾原住民研究センター」への訪問である。フィールドワークに行った際、挨拶がてら訪問したのだが、想像以上の歓迎を受け、非常にいい関係を結ぶことができた。現在彼らが行なっているプロジェクトの概要を説明してくれ、さらに私の研究内容も理解してくれ、加えて私にとって有意義となる新たなフィールドも教えてくださった。台湾で出版されている研究論文、書籍等も紹介してくださり、非常に有益でありがたい訪問となった。今後も継続して関係を維持し、研究に繋げていければと思う。

来期の予定として、2016年夏に「順益台湾原住民族研究会」で口頭発表を行なう予定となっている。その他、「ライフストーリー研究会」においても口頭発表の打診を受けており、それに向かって準備を行なっているところである。論文投稿も引き続き行っていく。

1) 井上伊之助(1960).『台湾山地伝道記』新教出版社.

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① ・ 社会言語科学会 (JASS) 投稿論文 (査読中)  
・ 天理台湾学会 投稿論文 (査読中)

② なし

③ なし

④ ● 口頭発表  
2015年9月20日  
異文化コミュニケーション学会 (SIETAR) 口頭発表

● 研究会発表  
2015年6月27日  
多言語社会研究会 第64回東京例会 口頭発表

2016年2月28日  
台湾原住民族との交流会 口頭発表